

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット1階)

事業所番号	2792000354		
法人名	社会福祉法人健成会		
事業所名	万代のつるさんかめさんの家		
所在地	大阪市住吉区万代6-8-31		
自己評価作成日	平成30年3月8日	評価結果市町村受理日	平成30年5月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	平成30年3月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中で、ご家庭で過ごすご自身の時間を大切に、時にはゆっくりと横になったり、皆と一緒におしゃべりや家事など 職員とともに過ごすことで笑顔を見れる日々になるように心がけている。地域参加をすることで生き生きとしたメリハリのある生活を送って頂けるようにしている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の平均年齢85歳、平均介護度3.4と高齢化・重度化が進んでいるが、介護知識・技能・経験とも豊富な管理者および職員の心の通った懸命な努力で、強制されること無く自分達のやりたいことをやりながら事業所理念の通り「笑顔で元気に楽しくその人らしく」過ごしている様子が伺える。職員同士のコミュニケーションが極めて良く、2人のフロアリーダーを中心にタイトな職員勤務体制の中でお互い協力・助け合っている。昨年着任した管理者は、健康の源であり利用者の最大の楽しみである食事を利用者と一緒に役割分担して徐々に手造りに復活するようになり、重度化に伴い外出困難となっているのをボランティアの協力を得て外出や事業所内での楽しみの機会を増やす事等を職員と検討しており、職員のモチベーションが一層上がっている。医療連携体制も整っており利用者・家族の安心を得ている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	健康で元気に楽しく長生きで、その人らしく地域で普通に暮らすという理念を常に意識し実践に繋げている	職員皆で作った事業所理念「健康で元気に楽しく長生きで、その人らしく地域で普通に暮らす」を玄関およびフロアーに大きく掲示し、地域の人々にも理解と拠力をして貰いながらその実践に日々努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として町会に加入し地域行事への参加や近隣ふれあい喫茶などで地域との交流を行っている	町会に加入し、夏祭り・住吉祭・餅つき・クリスマス会・囲碁・将棋・ふれあい喫茶等の地域行事に積極的に参加して地域との交流を図っている。昨年途切れた近隣保育園、小・中学校との交流も復活するように検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事の参加で認知症の方の理解と支援などを見て頂き運営推進会議でご利用者様も参加され、報告や相談を行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町会、地域包括支援センター、ご家族様、ご利用者様、法人代表、家主の参加で年6回会議を行い活発な意見交換をしサービスに生かしている	地域包括支援センター職員・町会長・婦人部長・家主・利用者および家族参加の下、基本奇数月第3金曜に開催している。ホーム運営の近況と課題を報告し、意見を求めそれを運営に反映している。民生委員や介護相談員・ボランティア等の参加も求める予定である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活支援課、介護保険課、安心サポートなどを利用し日頃から情報交換を行っている	生活支援課・介護保険課・安心サポートセンター等を日頃から訪問し、ホームの運営状況を報告すると共に情報交換し、協力関係を築いている。また市・区のグループホームネットワーク協議会にも参加・情報交換し、運営に活かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わないことを入所及び入職時にご家族様、職員に宣言している。但し玄関の施錠については交通量の考慮からご家族様、職員には周知している	毎年の定例研修会で「身体拘束の弊害と禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、拘束しないケアに取り組んでいる。現在は玄関を施錠しているが、利用者が閉塞感を抱かぬように、見守りが十分可能な時間帯から開錠するように検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修内部研修を通して全職員が認識し各施設会議においても周知している。またメディア報道での虐待についてはミーティング等で情報交換を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社会福祉協議会あんしんサポートの活用等職員にも周知している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な時間を取り、丁寧な説明を心がけ不安や疑問にも丁寧に対応して同意を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し要望などは職員間で共有し運営に活かしている。	利用者の意見・要望は、日々の関わりの中で些細な事でも記録し、申し送りノートで共有している。家族からは面談時に介護支援経過および個人記録を基にホームでの暮らし振りを説明して意見要望を聞き取り定例会議で検討して運営に反映するようにしている。また、毎月個別に暮らし振りを便りにして届けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談、フロア会議、リーダー会議を行い意見、要望等を集約し運営に反映している	個別案件は、日常業務の中で良く話し合っ現場即決している。全体に関わる意見提案は、毎月フロア会議やリーダー会議で検討し運営に反映している。個別面談も年2回行なっている。最近運営に反映した事例として、服薬ミス解消の役割分担・チェック、外出機会の平準化等がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業にあたって問題が生じたときには面談をし意見、要望を収集し整備につとめている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内外の研修、職員教育をとおして課題スキルアップに取り組んでいる		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大阪市、住吉区グループホームネットワークに参加し同業者、他職種者との交流に参加することでサービスの質の向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用に至るまでご家族様ご本人様に見学等して頂き、ご本人の様子を観察しながら意見要望を聞き取り顔なじみの関係づくりにつとめている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	時間をかけて面談を行いリラックスした雰囲気の中で話を聞いている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人のこれまでの生活に少しでも近づける支援を考えながらほかのサービス利用も含めた対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	これまでの生活歴などを基にご本人の「出来る」ことに着目し、家事や人の役に立てることへの共同を共有している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常生活の様子などを口頭あるいはお便りでお知らせしたり、協力をお願いし共にご本人様を支えていく関係づくりをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの人との電話、お手紙、お墓参り、法事、など家族との馴染みの飲食店に出かけるなどの支援をご家族とともにやっている	友人・知人の訪問は2~3人と少なくなっているが来訪時は丁寧に応対し、馴染みの関係が継続するように支援している。馴染みの場所は、美容室・飲食店・日用品店があり家族がいっしょに行っている。お盆や正月・法事に帰宅する支援も行なっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員がご利用者様同士が関わりを持てるように席の配置、コミュニケーションが取れるような環境整備などに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人、家族の意見、要望など出来るだけ柔軟な対応に努める。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中でお一人お一人に声をかけお話する時間を作りご本人の思いや意向に耳を傾け時間を大切にし職員はそれを共有し支援に活かしている	入所前に聴き取り纏めたアセスメントシートを基に、その後の思いや暮らし方の希望等の変化を日々の関わりの中で何気ない言葉や表情・仕草から察知し、家族にも確認して介護計画に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	お一人お一人の生活歴を共有し今までの暮らしを続けていけるよう家族とともに支援していく		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご家族、ケアマネ、医師、看護師などご本人とかかわりのある方からの情報を基に、ご本人の意向を聞きながら、できること、わかることの把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画はご本人、ご家族や必要な関係者の意見も聞きながらご本人がより良く暮らしていくために話し合った結果を基に作成しアセスメントとモニタリングを繰り返し見直ししている。変化に応じて臨機応変に見直し作成している	本人・家族の要望と医師・看護師の意見や介護支援経過個人記録・アセスメントシート・モニタリングの結果等を基に、6ヶ月毎にサービス担当者会議を開催し、介護計画変更の要・否を話し合い、本人の現状に即した本人本位の介護計画を作成している。状態の変化が有れば直ちに医師に相談し見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間で情報を共有しながら、日々のケアに活かし個別記録を基に介護計画の見直しへ反映させている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の意見、要望など出来るだけ柔軟な対応に努める。出来るだけ答え柔軟な対応に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	北包括支援センター、郵便局、銀行、消防、などを利用し安全で豊かな暮らしを楽しんで頂いています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医師による内科往診を月2回、歯科往診週1回眼科往診を月1回受けられ、ご家族様の同意と納得の下協力医療機関の意思をかかりつけ医として支援している	本人・家族等の意向を受けて現在は利用者全員が協力医療機関、内科は月2回、歯科週1回、眼科月1回の訪問診療を受診している。看護師は毎週訪問があり、健康チェックと緊急時対応の安心・安全体制が構築されている。他の専門科受診は基本家族が同行するがやむを得ぬ場合は職員が代行支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃の健康管理や観察から状態変化、異常に気付いた時は訪問看護との情報連携でいち早く医療機関との受診や看護が受けられるように支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	職員は随時面会に行きご利用者様のストレスの緩和に努め、医師、ご家族と相談し早期退院に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期に向けての説明は早い段階からご家族と話し合いそれに沿った計画書を作成し、職員、医師、関係者と共有しチームで支援している	「重度化した場合における対応に関わる指針」に基づき早い段階から説明し同意を得ている。実際に重度化したら、医師が本人・家族に状態を説明し今後の対応を話し合い方針を関係者が共有してチームとして最善の対応が出来るように取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し職員間で応急手当や初期対応の訓練に努め実践している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練の実施計画誘導灯や消防器具の点検を定期的に行い、避難時地域の方への協力を呼び掛けている。また住吉区災害助け合い協定にも参加している	今年度2回目の消防訓練は今月末実施予定である。消防・消火設備の自主点検および非常口・避難経路の確認も行っているが、新しい職員やローテーション休日等で年2回の訓練では万一の災害時の即応体制に不安がある。備蓄も不十分である。	介護度の高い利用者が多くなっているの想定しうるあらゆる災害に備えて、マニュアルを整備し、全職員が万一の災害時に即応出来るように短時間実践訓練の頻度を高め、且つ備蓄も増やす事を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様の尊厳とプライバシーを守り、声掛けや対応に関して、職員全員に意識付けを行いご利用者様がゆったりと暮らせるようご利用者本位の流れを作っている	定期的に接遇・人権等の研修を行って、利用者者を人生の先輩として尊敬し誇りやプライバシーを損ねない言葉掛けと対応をするように職員全員が取り組んでいる。気になるケースがあったら、互いに注意するようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様が仙田区出来るような声掛けと表情や態度でご本人の希望や好みを把握し自己決定に結ぶことが出来るように配慮している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人の生活パターンを把握して その人の生活リズムを大切にしながら対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしくおしゃれを楽しんだり2か月に一度の訪問理美容を利用したり、中には行きつけの美容室に出かけたりして楽しみをもっておしゃれして頂いている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事時間職員が一緒に席につき談話を楽しみながら行っている。食事後のお盆拭きなどお声かけしながら一緒に行い。無理にして頂くのではなくご本人様の意思に沿ってお手伝いして頂いている	朝食は夜勤者が手造りし、昨年からは昼・夕食はチルド食品を調理専門職員が解凍・湯せんし、ご飯と汁物は作って提供しているが、今一度手造り食を復活するように検討している。職員は重度者の介助・見守りをしながら一緒に楽しく食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事と水分量の記録を基にご本人の状態など職員共有し工夫を行って提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	最後まで口から食べることを重視しているため口腔状態を健やかにして頂きたく、毎食自前の口腔体操と食後の口腔ケアに力を入れている。また週一回の歯科往診を受け指導も受けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録を基に排泄パターンを把握し出来るだけトイレでの排泄を促し支援している	排泄パターンを把握し、トイレで排泄するように支援している。根気強いトイレ誘導の結果、現在16名の利用者中11名が自立できている。夜中も2時間毎にトイレ誘導してオムツからリハビリパンツへ改善した事例や不潔行為を解消した事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動量食事量水分量の把握をし自然排便につなげる。また薬に頼らないよう毎朝黄粉牛乳を飲んで頂いている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人様にはそっとお声掛けを行いご自身の意思を尊重しながら無理な声掛けはしないようにしている。体調に合わせて清拭足浴も行っている	無理強いせず、本人の意思を尊重しながら2日に1回は入るように声かけを工夫している。体調に合わせ、清拭・足浴も行って清潔を維持するように支援している。季節の菖蒲湯とゆず湯も楽しんでいる。3方向から介助出来る浴槽なので安全・安心・負担軽減に役立っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調、空調、環境整備などにも気を配り状態に応じて安心して眠れるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が日々の状況を把握し職員間の情報共有で医師との連携ももて服薬調整が行われている。また誤薬防止のために問題点があればその都度話し合い改善策を共有し服薬介助を安全に行うことに努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来るだけ本人のしたいこと出来ることを聞き実践して頂き気分転換をして頂いている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の意思を確認しながら近隣の散歩やご家族様との外出を楽しんで頂いている	季節や天候に合わせ、近くの万代池や公園に散歩に出かけたり近隣の店やスーパーに買い物に行く支援を行なっている。しかし重度化が進み、特に1階の利用者は外出の機会が大幅に減っている。	利用者の健康と季節や自然の移ろい・草花を楽しみ閉塞感を抱かぬように、ボランティアの協力を得て重度者といえども玄関前のスペースや近隣の公園への散歩等で外気に触れ日光浴し、草・花を愛でる支援を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理はご自身では困難なためご家族様の同意のもとにお小遣いを管理し自由に使うことが出来るように支援している。中にはご自身で少額ではあるが管理されている方もいる		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば家族や知への電話や手紙のやり取りは自由にできるようにしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有生活空間は常に清潔にし快適に過ごせるよう徹底している。季節の飾りやご本人の作られた作品などの掲示もして会話を楽しんでいる	リビング兼食堂は、広くはないが明るく清潔感があり、空調管理が行き届き居心地良く過ごせるように工夫されている。リビングと通路の壁面には、利用者と職員による季節の作品や習字等が飾られて季節感が感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有部分はそれぞれがご自由に使えるようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はご本人やご家族様に今までの馴染みの品で飾って頂きその人らしい雰囲気を感じられる部屋になるように促している	居室には、ベッドや空調設備・スプリンクラー・カーテン・ワイヤレスナースコール等が設置されている。その他は本人が使い慣れたダンス・衣装ケース・テレビ・好みの人形や家族の写真等が持ち込まれて今までと変らぬ落ち着いた居心地良く過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人様のお部屋の入口に表札をつけその人にわかる目印の飾りを工夫している。		